

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」進捗評価結果表

研究テーマ(領域)	人文工学の方法による人文社会科学の実質化	
研究総括	往住 彰文	
所属機関・部局・職	東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授	
評価区分		
	A	研究期間の延長により、優れた進展が期待できる。
	B	一層の努力を要するが、研究期間の延長により、今後の進展が期待できる。
	C	研究期間を延長しても、十分な進展は期待できない。
評価にあたっての意見		
<p>文学を情報科学、人工知能、自然言語処理のツールを用いて分析しようとする意欲的な研究テーマである。研究は着実に進展しており、学術雑誌で研究成果を発表するとともに、テキスト解析ツールが公開されている。また、作家との対話形式のワークショップを開催し、研究成果の社会への発信・普及にも工夫がみられ、評価できる。</p> <p>一方、こうした試行的な研究は、全てにわたって悉皆的な効果をもたらすというようなことを期待するのが無理であり、部分的であっても興味深い先行例を提示することに意味がある。その限りで言えば、作家との対話形式のワークショップのような実践例を今後できるだけ多様に展開し、作家本人、批評家、愛読者など多様な角度からの「読み」を念頭において議論していただきたい。また、オントロジー・エディタとテキスト探索ツールの構築が重要である。</p>		